

旧本尊と新本尊

寂光院は亡くなった父・用明天皇を弔うために聖徳太子の依頼を受けて 594 年に建立された。

本尊の地蔵菩薩は子どもや旅人を護る仏である。

地蔵は木彫の仏像であり、現世の人々を導き助ける修行僧の姿で表現される。

菩薩像もまた火事により大きく損傷を受けたが、のちに近くの収蔵庫に移され、春と秋の短い期間のみ一般公開されている。損傷はあるものの、現在も重要文化財の指定は外されていない。

旧本堂と同じ場所に新しい本堂を建設する工事は 5 年後に完成し、菩薩像の複製がその本尊として安置されている。

新しい本堂には、1185 年に一族が皇室の対抗勢力によって滅ぼされた、建礼門院と阿波内侍の木像があります。建礼門院は 29 歳のときに、寂光院に隠棲を求めましたが、7 年後に亡くなりました。